

## 成績評価における客観的な指標の算出方法について

### 【授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要】

学修成果及び教育の評価は、平常評価、平常試験、学期末試験、卒業試験並びに修了試験にて行い、その試験の方法は学科目では筆記試験を、実習科目については実技試験を原則とし、場合によっては筆記試験、口答試験、研究調査物などのレポートによってこれにかえることで行う。

これらの評価は次の四段階に分けて評価し、可以上をもって履修認定する。

優（100点～90点）	良（89点～70点）
可（69点～60点）	不可（59点以下）

尚、学期末試験、卒業試験、修了試験は、出席率が国土交通省指定学科については90%以上、その他の学科目については85%以上、実習科目は90%以上でなければ受験することができず、この出席率に満たない場合は、学則の規定に則り出席率が満たされる時間数の補習授業を受講し、欠席時間を補った上で各試験を受験するものとする。

### 【客観的な指標の設定及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要】

成績評価に於けるGPA等の客観的な指標として、授業科目毎に評価される「優」、「良」、「可」、「不可」の各評価を得点化している。

具体的には、

「優」	・・・	50点
「良」	・・・	30点
「可」	・・・	10点
「不可」	・・・	0点

とし、これらの合計点で各学生が所属する学科及びコースの中で、どの位置にあるかを把握する。

尚、学科及びコースにより評価が「合否」のみを決定する科目については、当該の得点化する科目に含まない。